

NEWS LETTER
会報

紙リサイクルにもっとたくさんの方が参加する土台づくり。



Topics

- 年頭所感（古紙再生促進センター代表理事・経済産業省 製造産業局 素材産業課長）
- 令和5年度 紙リサイクルセミナー 開催報告
- 令和6年 新年互礼会 開催報告



公益財団法人 古紙再生促進センター



目次

P2 活動報告

P2 年頭挨拶
公益財団法人古紙再生促進センター
代表理事 長谷川 一郎

P4 年頭所感
経済産業省 製造産業局
素材産業課長 土屋 博史

P6 令和5年度 紙リサイクルセミナー 開催報告

P11 令和6年 新年互礼会 開催報告

P14 センター日誌

センター日誌（10月～12月分）



令和6年 年頭挨拶



公益財団法人古紙再生促進センター
代表理事 長谷川 一郎

令和6年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年の我が国経済を振り返りますと、昨年5月に、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、社会経済活動の正常化が進み、サービス消費を中心に回復の動きがみられております。

他方、長期化しているロシアによるウクライナ侵攻に加え、昨年10月に勃発した中東紛争は、世界のエネルギー生産にとって重要な地域で新たな紛争が起きたことから、原油価格を注視していく必要があるなど、世界的な景気後退が懸念される状況です。

かかる状況において、岸田政権は、昨年11月に令和5年度補正予算における一般会計追加額が13.1兆円となるデフレ完全脱却のための総合経済対策を策定し、GDPを1.2%押し上げることや消費者物価指数を1.0%引き下げることなどを目指した財政政策を閣議決定したところです。

さて、古紙を取り巻く状況を見ますと、近年、古紙の発生が低調に推移し、古紙の回収量が減少傾向にあります。現に、昨年1月～9月までの古紙回収量は、約1,290万トンにとどまり、一昨年同期比96.2%、約52万トン減少しております。

このことは、製紙業界や古紙業界における古紙の需給や在庫量等に、少なからず影響を及ぼしている状況にあります。

当センターといたしましても、我が国の紙リサイクルシステムの維持・向上を目指し、需給両業界と常に意見交換をしつつ、需給の安定化を図ってまいりたいと考えております。

ご高承のとおり、我が国の令和5年1月～9月までの古紙回収率は81.7%、古紙利用率は66.5%と高いレベルを維持しています。

一方、資源有効利用促進法に基づく古紙利用率の目標は、令和7年度において65%とされており、既に達成水準となっておりますが、私ども、センターとしましては、古紙回収量が低調に推移している状況に鑑み、これまで以上に、未回収古紙の掘り起こし等の取り組みを促進することが重要であります。

こうした中、当センターは本年、関係省庁や自治体、需給両業界などの関係者の皆様のご協力もあって、創立50周年という大きな節目を迎えます。この50周年を一つの区切りとして、新たな50年へ向けて、当センターは次の取り組みを展開してまいります。

一つ目は、コロナ禍以降における事業運営であります。

当センターはウイズコロナにおける事業展開を模索する中で、従来の対面型中心の運営から、オンライン型とのハイブリッド形式を通じた事業運営を心掛けてまいりました。中でも、広報・啓発事業において、紙リサイクルセミナーにおけるライブ及び録画配信を始め、小学生向けのオンライン出前授業や自治体担当者を対象としたオンラインセミナー等を通じて、情報発信先の多様化に資するなど、新たなニーズに繋がるケースが生じてきており、今後も柔軟かつ効率的な事業運営を展開してまいります。

二つ目は、更なる持続的な社会作りへの貢献を認識していくことであります。

資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成に重要な役割を果たしている紙リサイクルシステムが、持続可能な社会を目指す世界共通の目標であるSDGsという大きな枠組みに直結していることは言うまでもありません。このように、紙リサイクルシステムの維持や発展によって、持続的な社会作りに貢献していることを常に認識し、各種事業を進めていくことが極めて大切なことと考えております。

三つ目は、中長期的課題整理であります。

一昨年来、中長期課題整理に向けた検討を開始しておりますが、紙リサイクルに関わる様々なステークホルダーの方々との情報交換を行いつつ、今後の社会動向に適応する持続可能な紙リサイクルシステムの在り方や課題について、中長期をイメージした共通ビジョンや認識を構築してまいります。

本年も製紙業界、古紙業界にとって大変厳しい状況が続くかと思われませんが、需給両業界の皆様におかれましては、当センターを討議の場として活用していただき、我が国の紙リサイクルの維持・発展に向けて叡智を結集していただきと存じます。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして、希望に満ちた明るい年になりますよう心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 所 感



経済産業省 製造産業局
素材産業課長 土屋 博史

令和6年の新年を迎え、謹んでお喜び申し上げます。また、平素より経済産業行政に対する深いご理解と格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行され、社会経済活動の正常化が進みつつある一方で、物価高騰や人手不足の影響等により、依然として厳しい状況にあります。紙・パルプ産業においても、原料や部素材等の供給途絶やエネルギー価格の高騰など、様々な面で引き続き影響を受けておられると承知しています。

また昨年は、脱炭素社会の実現に向け、日本の経済・社会、産業構造のグリーン・トランスフォーメーション（GX）の議論が一段と加速しました。化学・セメント・紙パルプ等をはじめとする素材産業は、我々の身の回りにある多様な製品の素材を供給することで社会経済を下支えする基幹産業であり、また、これら素材産業が生み出す素材は、それ自体が日本の競争力の源泉ともいえます。他方で、素材産業は、生産プロセスにおいて大量の電気や熱を消費するエネルギー多消費産業でもあります。我が国のCO₂排出量の約1/4を占める素材産業は、“Hard-to-abate”、すなわち排出削減が困難なセクターと言われているように、GXの実現は容易ではありませんが、官民が連携をしながら、2050年カーボンニュートラル実現をチャンスに変えていくことは、日本の製造業の将来に向けて不可欠な取組だと認識しています。

これまで、GX基本方針として、国が長期・複数年度にわたるコミットメントを示すと同時に、規制・制度的措置の見通しを示すべく、化学・セメント・紙パルプを含む22分野において「道行き」が提示されてきました。こうした取組を踏まえ、昨年、この道行きを「分野別投資戦略」として専門家の知見も借りブラッシュアップすべく、「GX実現に向けた専門家ワーキンググループ」において議論が進められ、12月の「GX実行会議」において戦略を取りまとめました。ここでは、CO₂排出削減を効果的・効率的に実現する技術のうち、特に産業競争力強化・経済成長に効果の高いものに対して、GX経済移行債を活用した「投資促進策」を講じていくこととしております。GX投資に果敢に取り組む素材産業含む事業者に対し、先行投資支援を行うとともに、削減効果等のGX価値の見える化や、CO₂排出削減のインセンティブ設計などのグリーン市場の

創出に取り組むことで、既存市場で利益を上げながら、同時にグリーン市場を開拓していくことを目指してまいります。

諸外国では、米国のIRA法、CHIPS法や欧州のグリーン・ディール産業計画をはじめ、戦略分野に関する投資を自国内に誘導するための国際的な産業政策競争が活発化してきました。こうした中、我が国も、中長期的な経済成長を牽引する戦略分野において、世界に伍して競争できる投資促進策が必要です。GXに向けた投資の中には、特に生産段階でのコストが高いものもあり、初期投資促進策だけでは国内の投資判断が容易でない事業も存在します。日本も、その産業構造を踏まえた生産・販売量に応じた大胆な投資促進策を講じていくことが重要であるという考えの下、今般、「戦略分野国内生産促進税制」を創設しました。素材産業としても、「グリーンケミカル」を対象分野として登録がされております。こうした新たな投資促進策を講じることにより、民間企業に対して生産・販売拡大のインセンティブを与えるを通じ、更なるGXの促進と成長力の強化を図ってまいります。

カーボンニュートラルに向けた取組は、もはや経済成長の制約ではなく、新たなビジネスチャンスにつながる成長戦略そのものです。今後もこのような政策を通じて、化学・紙パルプ・セメントをはじめとする素材産業が、これまで以上に国内外の産業界全体に貢献する産業となっていくことを期待しています。

さらに、来年は2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催されます。昨年末には入場チケットの前売販売も開始され、本番に向けてより一層準備が加速されていきます。本万博では、「いのち」をテーマに掲げ、世界が一つの「場」に集う機会となります。本万博を契機として世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや創造を促進し、世界的な危機を乗り越え、一人一人のいのちを守り、いのちの在り方、生き方を見つめ直すことで、未来への希望を世界に示すことを目指していきます。企業・団体がこれまでの万博よりもさらに幅広い参加ができるように、多様な参加の枠組みが計画されており、紙・パルプ業界の皆様におかれましてはぜひ積極的に関心いただければと思います。

新型コロナウイルス感染症を乗り越えた先の新たな時代に向け、経済産業省としては、これまでに述べたような様々な施策を総動員し、業界の皆様とも連携しながら、素材産業の成長のために全力を尽くしていく所存です。この新しい時代を迎えるにあたって、皆様の御健康と御多幸を、そして紙・パルプ産業の更なる発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

令和5年度

紙リサイクルセミナー 開催報告



令和5年度「紙リサイクルセミナー」は下記の通り開催され、盛況のうちに無事、終了いたしました。

本年度は人数制限を設けず、星陵会館にてセミナーを開催しました。また、YouTubeでのライブ配信を並行して行うハイブリッド形式で実施しました。紙リサイクルセミナーの様子は10月13日（金）～10月31日（火）までの期間、センターHPにて録画配信を行いました。

ご来場・ご視聴いただき、心より感謝申し上げます。

日時	令和5年10月12日(木) 13時30分から16時
開場	星陵会館
主催	公益財団法人古紙再生促進センター
後援	経済産業省
参加人数	会場 107名 ライブ配信 約110名 録画視聴 522名



セミナー

開会挨拶 (公財) 古紙再生促進センター 代表理事 長谷川 一郎

講演 I 「紙製容器包装と雑がみの一括収集の取組み～名古屋市の事例」

愛知県古紙協同組合 理事長

株式会社石川マテリアル 代表取締役社長 石川 喜一朗 氏

II 「中国段原紙市場の飽和と超生産過剰時代〈今後の古紙需給への影響〉」

山發日本株式会社 営業部 兼 統括管理 部長 坂口 健太郎 氏

III 「物流の2024年問題における課題と対応」

株式会社NX総合研究所 常務取締役 大島 弘明 氏

閉会挨拶 (公財) 古紙再生促進センター 副理事長 大久保 信隆

司会 (公財) 古紙再生促進センター 業務部長 中田 広一

開会挨拶要旨

公益財団法人 古紙再生促進センター 代表理事 長谷川 一郎

- ・ 本年は4年ぶりにコロナ禍における会場への来場者数の制限を緩和した。多くの方にご来場いただき、本セミナーを開催できることを心から嬉しく思う。
- ・ 本年9月の内閣府の月例経済報告において「景気は緩やかに回復している」とされているが、原燃料価格の高騰や物価上昇などの影響が見受けられる。一方で、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行し、インバウンド需要が回復しつつある中、今後の経済活動がさらに活性化していくことを期待している。
- ・ 我が国の本年1月～7月の古紙回収率は81.6%、古紙利用率は66.6%と非常に高いレベルを維持している。資源回収利用促進法に基づく古紙利用率の目標は令和7年度において65%とされており、既に達成水準にあるもののこれまで以上に古紙利用率向上に向けた取り組みを継続し、関係者における共通認識形成を図りつつ諸活動を促進していく所存である。
- ・ 当センターは令和6年に関係者の皆様のご協力もあって、節目となる創立50周年を迎える。この50周年に向けて、次の時代を見据えた中長期的な課題整理の検討を段階的に行い、今後の紙リサイクルの共通ビジョンの作成を進めている。多くの関係者と将来像を共有することによって、今後の紙リサイクルを考える風土を醸成していきたい。



講演概要

「紙製容器包装と雑がみの一括収集の取組み～名古屋市の事例」

愛知県古紙協同組合 理事長

株式会社石川マテリアル 代表取締役社長 石川 喜一朗 氏

- ・ 名古屋市の事例を基に紙製容器包装と雑がみの一括収集の取組みについて、経過の報告や今後の課題について講演した。
- ・ ごみの減量を目的にモデル地区で実施した実証実験や排出者からのアンケートを基に、今年度4月より紙製容器包装と雑がみを一括で収集している。これまでは集めた紙製容器包装を組合で適合物と非適合物に選別し、適合物を梱包して再商品化事業者のもとに運び、そこで梱包したものを解体して製紙原料と禁忌品に選別が行われていた。一方で、一括収集では組合で製紙原料と禁忌品に選別し、禁忌品のみを再資源化事業者に運ぶことで、改めて解体して選別を行う必要がなくなった。これにより、事業の簡素化と解体工程の削減によるCO₂削減効果を得ることができた。名古屋市で8月に実施された可燃ごみの組成調査によると、可燃ごみに含まれる雑がみの量が減少しており、一定の効果が見られた。
- ・ 今後の課題として紙マークの認識を挙げた。現在、一般に紙マークの付いた製品は全てリサイクルできるという誤った認識がされており、実際に雑がみの中に紙マークの付いた禁忌品が多く混入している。今後、脱プラや減プラによる紙製容器包装の増加が考えられる中、これらに対し製紙産業全体でどのように対応するか検討する必要がある。



「中国段原紙市場の飽和と超生産過剰時代 〈今後の古紙需給への影響〉」

山發日本株式会社 営業部 兼 統括管理 部長 坂口 健太郎 氏

- ・世界の段原紙増産状況や中国国内の需給、中国の段原紙輸入の現状とそれを踏まえた今後の古紙市場への影響について講演した。
- ・2018年以降、世界で8,075万トンの増産計画が発表され、22年までに5,770万トンが既に稼働している。その内訳は、中国が3,770万トン（46.7%）で約半分を占め、東南アジア1,430万トン（17.7%）、欧州1,170万トン（14.5%）と続いている。コロナの影響で予定されていた新マシンの建設が遅れ、22年後半～23年に2,580万トンの稼働が集中している。その内、1,160万トンが中国で稼働し、消費減退も重なったことで急激に需給が緩む原因となった。
- ・中国造紙協会の統計によると、中国の段原紙の消費量は経済成長とコロナの巣ごもり需要によって、20年・21年と2年連続2桁成長が続いた。17年以降は消費量が生産量を100万トン以上上回る状況が続いている。しかし、生産能力と比べると、22年時点で生産能力が7,133万トンに達しており、既に約1,500万トンの生産過剰となっている。24年までに中国の生産能力は8,024万トンに達し、2,042万トンが生産過剰になり、稼働率は70%以下まで下がることが予想される。世界中で新規マシンが稼働する中で、中国マーケットも超生産過剰時代になると予想される。
- ・中国は今年1月から景気刺激対策の一環として輸入関税の改定を実施し、段原紙の関税は0%に引き下げられた。これにより、今年1～6月の段原紙輸入量は395万トンと前年同期比1.5倍まで増加している。しかし、日本からの輸入量は18.4万トンで約2割減少している。その要因は、①価格優位性がなくなったこと、②規格の違い、③ビジネススタイルの変化、④輸入業者と国内製紙企業の過剰競争が挙げられる。一方で、日本の段原紙輸出における中国依存度はかなり高まっており、同国への販売不振は段原紙輸出量減少の大きな要因となっている。
- ・アジアの段原紙と古紙価格の推移について、超生産過剰によって原紙価格が下落する一方で、古紙価格は以前ほど大きく価格が下がっていない。その理由は次の3点である。①19年は中国の古紙輸入禁止によって大きな混乱を生じたが、現在はアジア中に製紙会社ができただけで販売先に困らないこと。②新しくできた製紙工場はそれぞれ古紙在庫を持つ必要があり、月100万トン以上の常備在庫が必要になる。同様に原紙在庫も持つ必要があるため、古紙需要が増えた一方で、常備在庫によって市場中の原紙流通が遅滞していること。③消費減退によって古紙の発生量が減少しているうえ、各国が増産したことで古紙の国内消費量は以前より多くなっている。また、日米欧全ての地域で古紙の輸出力が減少していることである。この状況が当分続くと予想される中で、中国製紙企業の収益はかなり悪化している。今後、増産計画の中止や既存マシンの閉鎖を含め、数年以内に業界の再編成が起こる可能性がある。万が一、大手製紙企業が倒産することがあれば、大きな市場混乱は避けられない。



「物流の2024年問題における課題と対応」

株式会社 NX 総合研究所 常務取締役 大島 弘明 氏

- ・ 物流の2024年問題について、2024年問題による影響の見通しや持続可能な物流の実現に向けた将来像について講演した。
- ・ 物流の2024年問題とは、働き方改革関連法の改正によりドライバーの労働時間に上限が課されることで生じる問題の総称のことである。ドライバーの時間外労働時間が年間960時間に制限されることで、輸送能力が不足し、一部のモノが運べなくなると懸念されている。2024年問題における輸送能力の試算によると、今後この問題に対して何も対策を取らない場合、2024年に不足する輸送能力の割合は14.2%（4.0億トン）、2030年に不足する輸送能力の割合は34.1%（9.4億トン）とされており、多くのモノが運べない状況となる。また、業界別では、紙・パルプ業界においても12.1%の輸送能力の不足が発生すると試算され、運送業者だけでなく、発荷主・着荷主を含めた物流改善が必要である。
- ・ 物流現場の就業状況・労働条件は非常に厳しいものとなっている。例えば、①全職種平均に比べトラック運転者の有効求人倍率は約2.0倍と高く、②トラック運転者はピーク時に比べ213千人減少に加え、高齢化が顕著、③全産業平均よりトラック運転者の労働時間は約2割長く、年間賃金は約1割低い、などが挙げられる。2024年問題は物流事業者のコンプライアンス問題として自助努力は不可欠であるが、荷主や社会の行動変容を含めた協力も必要である。
- ・ 持続可能な物流を実現するためには、ドライバーの働き方改革と生産性向上が必要である。働き方改革では、適正運賃の収受を基本とした、労働時間が短縮しても賃金が減らない仕組み作りが必要である。他業種並みの労働条件で、新卒者や若年層、女性や高齢者からの職業選択の選択肢に挙がる、魅力ある業種に転換しなければならない。また、共同配送やモーダルシフト、荷役作業のパレット利用など、省力化・システム化による生産性向上も図る必要がある。これらは物流の取引条件の見直しが必須となるため、運送業者と荷主の相互協力が必要である。



閉会挨拶要旨

公益財団法人 古紙再生促進センター 副理事長 大久保 信隆



本日の講演は多様な観点から紙リサイクルに関する講演をいただいた。3つの講演に共通するキーワードは「持続的な社会をつくる」という点である。これからは、古紙の排出者や需給両業界だけでなく、そしてそれを取り巻く世界の古紙需給状況や物流業界も含めて「持続可能な社会」を作ると同じ目標のために取り組む必要があると感じた。今年は会場への来場者数の制限も緩和され、多くの方にご来場いただいた。また、YouTubeによるライブ配信を通じて多くの方にセミナーに参加していただいたことを改めて御礼申し上げ、閉会の挨拶とする。



今回の紙リサイクルセミナーで使用したテキストはセンターHPにアップロードしています。

以下のQRコードよりご確認ください。



令和5年度
紙リサイクル
セミナー
テキスト

新年互礼会 開催報告

令和6年新年互礼会を令和6年1月9日（火）経団連会館4階 ダイヤモンドルームにて開催致しましたので、紹介します。

新年挨拶要旨

公益財団法人古紙再生促進センター 代表理事 長谷川 一郎

- ・近年の古紙を取り巻く状況は、古紙の発生が低調に推移し、古紙回収量が減少傾向にあります。この傾向は製紙業界・古紙業界に少なからず影響を及ぼしており、当センターとしても、常に需給両業界と意見交換を行い、我が国の紙リサイクルシステムの維持・向上を目指して参ります。
- ・我が国の令和5年1月～10月までの古紙回収率は81.7%、古紙利用率は66.5%と高いレベルを維持しています。資源有効利用



促進法に基づく古紙利用率目標は、令和7年度において65%とされており、既に達成水準となっていますが、当センターとしてはこれまで以上の未回収古紙の掘り起こし等の取り組みを進めることが重要と考えています。

- ・このような状況の中、関係省庁や自治体、需給両業界の皆様のご協力もあり、当センターは本年創立50周年という節目を迎えます。当センターは新たな50周年に向けて、①コロナ禍以後の事業運営、②更なる持続的な社会作りへの貢献、③中長期的課題整理といった取り組みを展開し、我が国の紙リサイクルの安定的な発展に寄与して参りたいと考えております。このような取り組みに加えて、本年10月16日に創立50周年記念式典として、シンポジウム及び祝賀会を開催する予定です。改めてご案内を申し上げますので、ぜひご臨席いただけましたら幸甚に存じます。皆様のご健勝とご多幸を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

来賓祝辞

経済産業省 製造産業局 素材産業課長 土屋 博史 様

- ・我が国の経済は、経済界の皆様のご尽力もあり、100兆円規模の国内投資や3.5%を超える賃上げ等が相まって、実に30年ぶりの高水準にあります。長らく停滞していた日本経済を発展させ、デフレマインドを変えていく千載一遇のチャンスであります。これを確実なものとしながら、日本経済の持続的な成長を実現するために、経済産業省として引き続き大胆な産業政策を講じて参ります。



- ・こうした中で、皆様は長年にわたって日本の紙リサイクル維持・向上に向けて取り組まれてきました。古紙の分別排出の徹底や資源循環に関する意識の向上、品質の安定化といった点に多大なご貢献を頂いたことに改めて感謝申し上げます。
- ・環境の保全や紙への代替、バイオリファイナリーなど様々なイノベーションが起きています。このような新しい事業展開をGXとしてしっかりとご支援させて頂ければと存じます。昨年はカーボンニュートラル実現に向けて、GXの検討が一段と加速し、紙・板紙を含めた16分野について、分野別の投資戦略が12月に取りまとめられました。また、国内投資を加速し、イノベーションを促進していくことが重要であり、年末に国内投資促進パッケージを取りまとめました。このような動きもあわせ、日本経済の潜在成長率を引き上げて参ります。
- ・来年には大阪・関西万博が開催されます。企業・団体の皆様にも様々な形で参画していただけるよう工夫して参りますので、ぜひご関心頂ければ幸いです。製紙業界・古紙業界の皆様のご繁栄とご多幸を祈念して、挨拶とさせていただきます。

来賓として、日本製紙連合会の役員の皆様にご臨席いただきました。代表して会長の加来 正年 様、副会長の大坪 清 様、理事長の小川 恒弘 様よりご挨拶頂きました。



来賓ご挨拶 (左から 加来 正年 様、大坪 清 様、小川 恒弘 様)



中締め挨拶 (小貫副理事長)

来賓紹介の後、ご参加頂いた皆様の懇談の時間とさせていただきました。参加者同士の挨拶や新たな交流など、和やかな雰囲気の中での新年互礼会となりました。

新年互礼会の様子



活動報告

お知らせ

センター日誌

令和5年度 センター日誌

10月分～12月分

活動報告

お知らせ

センター日誌

月	日	会議名	主要議題
10月	5日(木)	東北地区委員会	①報告事項 ・関東地区委員会報告 ②古紙の需給・市況動向について ③その他 ○集団回収実施団体感謝状贈呈式について ・8団体の推薦について ・日時:12月6日(水) ・場所:仙台サンプラザ
18日(水)	関東地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④関東地区古紙品質調査古紙開梱組成結果(令和5年度上期) ⑤その他 ○集団回収実施団体感謝状贈呈団体推薦案(13団体)、及び集団回収特別活動賞贈呈団体推薦(栃木県小山市立中小学校)の承認 ○環境フェア 10月22日(日)「2023あつき環境フェア」(厚木中央公園にて) ○令和5年度「紙リサイクルセミナー」 10月31日(火)まで当センターホームページの動画配信ページにて録画配信中 ○紙リサイクル出前授業 11月4日(土) 船橋市西部公民館 11月14日(火) 足立区立弥生小学校 11月25日(土) 船橋市中央公民館 12月23日(土) 武蔵野市(むさしのエコリゾート) ○今後の関東地区委員会の開催予定	
		中部地区委員会 東海分会	①古紙の需給・市況動向について ②火災事故報告 ③第5回業務委員会報告 ・集団回収実施団体への感謝状贈呈について ・集団回収特別活動賞贈呈団体について ・紙リサイクルセミナーについて ④その他 ・今後の中部地区委員会東海分会の開催予定
20日(金)	中部地区委員会 北陸分会	①古紙の需給・市況動向について ②集団回収実施団体への感謝状贈呈について ③火災事故報告 ④第5回業務委員会報告 ⑤その他 ・今後の中部地区委員会北陸分会の開催予定	

月	日	会議名	主要議題
10月	25日(水)	10月度常任理事会	①集団回収実施団体への感謝状贈呈について (東北地区委員会、中部地区委員会、中・四国地区委員会の推薦) ②50周年記念シンポジウム及び記念祝賀会(仮題) ・記念シンポジウム 令和6年10月16日(水)午後(時間未定) ・記念祝賀会 令和6年10月16日(水)午後(時間未定) ・場所 経団連会館国際会議場、経団連ホール ③創立50周年史 ページ構成案東について ④令和5年度紙リサイクルセミナー(結果報告) ⑤令和5年度第6回業務委員会議事次第について ⑥その他 ・今後のスケジュールについて
		第6回業務委員会 (Web会議システム併用)	①各地区の古紙の需給・市況動向について ②2023年10月～2024年3月 段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ③集団回収実施団体への感謝状贈呈について (東北地区委員会、中部地区委員会、中・四国地区委員会の推薦) ④令和5年度紙リサイクルセミナーについて(結果報告) ⑤古紙開梱組成結果(中間報告) ⑥中長期的課題報告書の取りまとめ・進捗状況 ⑦50周年記念シンポジウム及び記念祝賀会(仮題) ・記念シンポジウム 令和6年10月16日(水)午後(時間未定) ・記念祝賀会 令和6年10月16日(水)午後(時間未定) ・場所 経団連会館国際会議場、経団連ホール ⑧その他 今後の業務委員会等の開催予定
	27日(金)	九州地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②古紙の品質問題について ③その他 今後の九州地区委員会等の開催予定
	30日(月)	近畿地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②その他 今後の近畿地区委員会等の開催予定
11月	16日(木)	中部地区委員会 甲信分会	①古紙の需給・市況動向について ②集団回収実施団体への感謝状贈呈について ③製紙工場火災事故の件 ④業務委員会報告 ⑤その他 今後の中部地区委員会等の開催予定

月	日	会議名	主要議題
11月	21日(火)	関東地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④2023年10月~2024年3月段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ⑤その他 ○全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2023 ・応募状況について ・応募締切:12月8日(金)当日消印有効 ・表彰式:(予定)2024年3月2日(土)ホテルメトロポリタンエドモント ○紙リサイクル出前授業 11月25日(土)船橋市中央公民館 12月23日(土)武蔵野市(むさしのエコリゾート) ○今後の関東地区委員会等の開催予定
		近畿地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②その他 今後の近畿地区委員会等の開催予定
11月	22日(水)	北海道地区委員会 (Web会議)	①古紙共販集計表について ②古紙需給動向について ③古紙消費実績と計画対比表について ④令和5年10月~令和6年3月古紙消費計画について ⑤北海道商組の古紙仕入・出荷・在庫量調査表について ⑥古紙の消費量と在庫量の推移 ⑦情報交換 ⑧その他 ・令和6年度集団回収感謝状贈呈について ・令和6年度広報事業について ・令和6年度小学校向け出前授業について ・北海道製紙原料直納商業組合50周年について
11月	28日(火)	第2回新潟分会	①古紙の需給・市況動向について ②令和6年度以降の事業について ③新潟共販事業について ④集団回収実施団体感謝状贈呈式について
		静岡地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について 古紙の市況動向・品質状況報告 ②事務局からの連絡事項 ○「第13回産業振興フェアinいわた」出展報告 ○「第2回ふじさんアート・クラフトフェア」への出展可否について ○紙リサイクル出前授業について ・実施報告及び今後の計画 ・新聞購読者割合の調査結果報告 ○委員研修会実施報告 ・実施日:10月20日(金)~21日(土) ・研修内容:北陸地方の施設見学 ・参加人数:18名

月	日	会議名	主要議題
11月	28日(火)	静岡地区委員会 (Web会議システム併用)	○委員懇話会の開催について ・実施日:1月23日(火)17時30分~19時 ・会場:ホテルグランド富士(富士市) ○令和6年度予算(案)について ③その他 ○センター創立50周年記念事業について ○「雑がみ」の実態調査について ○年末年始のメーカー古紙受け入れ計画の調査について ○今後の静岡地区委員会の開催予定
12月	6日(水)	東北地区委員会	①報告事項 ・業務委員会報告 ・関東地区委員会報告 ②古紙の需給・市況動向について ③集団回収実施団体への感謝状贈呈式について ④その他 ○今後の東北地区委員会の開催予定 集団回収実施団体への感謝状贈呈式
11月	11日(月)	11月度常任理事会	①集団回収実施団体への感謝状贈呈について (近畿地区委員会の推薦) ②コロナ禍における集団回収実施団体への感謝状贈呈に係る運用について(2024年版) ③「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2023」の応募状況等について ・応募状況について ・応募締切:令和5年12月8日(金)消印有効 ・表彰式:(予定)令和6年3月2日(土)ホテルメトロポリタンエドモント ④2024年度(令和6年度)予算策定関連 ⑤令和5年度第7回業務委員会議事次第について ⑥その他 ・50周年記念式典関係 ・今後のスケジュールについて
		第7回業務委員会 (Web会議システム併用)	①各地区の古紙の需給・市況動向について ②集団回収実施団体への感謝状贈呈について (近畿地区委員会の推薦) ③「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2023」の応募状況等について ・応募状況について ・応募締切:令和5年12月8日(金)消印有効 ・表彰式:(予定)令和6年3月2日(土)ホテルメトロポリタンエドモント ④その他 ・今後の業務委員会等の開催予定

月	日	会議名	主要議題
12月	12日(火)	第3回国際委員会	①古紙需給の現状及び見通しに関する情報交換 ・古紙発生の現状及び見通し報告 ・国内製紙会社の古紙消費の現状及び見通し報告 ・古紙輸出に関するトピックス及び見通し報告 ②海外関連トピックス ③その他 ・Webセミナーについて ・SGEC/PEFCジャパン主催ブランドみらいミニセミナー2023について ・中長期的課題報告書の取りまとめ・進捗状況について ・新年互礼会について 開催日時:2024年1月9日(火)13:00~ 場所:経団連会館(4階)ダイヤモンドルーム ④2022年度の委員会スケジュール
	13日(水)	中部地区委員会 東海分会	①古紙の需給・市況動向について ②令和6年度予算編成(案)について ③第7回業務委員会報告 ④その他 ・今後の中部地区委員会東海分会の開催予定
	14日(木)	九州地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②古紙の品質問題について ③令和5年度今後の活動計画 ④報告事項 ・紙リサイクルコンテスト2023 ・小学生対象のリサイクルバスツアー ・小学生高学年向け紙リサイクル出前授業の開催について ・紙リサイクル意見交換会、研修会の実施協力について ・海外関連トピックス
	18日(月)	中・四国地区委員会 (Web会議)	①製紙メーカー生産状況・古紙入荷状況 ②各地区の古紙市況報告 ③質疑応答 ④古紙品質について ⑤集団回収実施団体感謝状の推薦について ⑥その他 ・今後の中・四国地区委員会の開催予定

月	日	会議名	主要議題
12月	19日(火)	関東地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④その他 ○全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2023応募結果 ○紙リサイクル出前授業 12月23日(土) 武蔵野市(むさしのエコレゾート) ○古紙再生促進センター新年互礼会 2024年1月9日(火)13時00分 経団連会館4階ダイヤモンドルーム ○Webセミナー ライブ配信:2024年2月27日(火)15:30~16:30 録画配信:2024年3月1日(金)~3月31日(日) ・講演内容:(仮)ベトナムにおける古紙利用の現状と今後の見通し ・講師:Kraft of asia Paperboard & Packaging Co.,Ltd Chairman General director 島田 貴弘氏 ○今後の関東地区委員会の開催予定
	21日(木)	第17回家庭紙委員会	①古紙入荷・消費・在庫、古紙地域別入荷 ②古紙需給の現状及び見通しに関する意見交換 ・古紙発生の現状、見通し、古紙輸出、トピックス等 ・メーカー消費の現状及び見通し ・意見交換 ③古紙品質に関する情報交換 ・メーカーでの品質トラブル、禁忌品報告 ④その他 ・今後の家庭紙委員会の開催予定

編集後記

明けましておめでとうございます。

さて、本号では、令和5年10月12日（木）に開催した紙リサイクルセミナーについて掲載しました。今年度の講演は、紙製容器包装と雑がみの一括収集の取組みや中国の段原紙市場、物流2024年問題といった今後の日本の紙リサイクルを考えていく上でのキーワードが盛り込まれていますので、是非講演要旨をご覧ください。

また、本号では、令和6年1月9日（火）に経団連会館で開催した新年互礼会の様子を紹介しています。新年のご挨拶や参加者同士の交流など、終始和やかなムードで開催することができました。ご参加いただいた皆様には改めて御礼申し上げます。

今後とも、会報では様々なセンター活動をお伝えして参ります。本年もセンター活動について、皆様のご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。（武田）

地区委員会事務局

地区	郵便番号	所在地	電話番号	FAX番号
北海道	060-0002	札幌市中央区北二条西2丁目 リージェントビル5階	011 (271) 1551	011 (232) 0017
東北	980-6003	仙台市青葉区中央4-6-1 住友生命仙台中央ビル3階 日本紙パルプ商事（株）北日本支社内	022 (225) 3359	022 (261) 4522
関東	104-0042	東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4階	03 (3537) 6822	03 (3537) 6823
静岡	417-0801	富士市大淵2590番1号 静岡県富士工業技術支援センター内	0545 (35) 5270	0545 (35) 5026
中部	450-0002	名古屋市中村区名駅3丁目25番9号 堀内ビル7階	052 (582) 1836	052 (581) 6943
近畿	541-0052	大阪市中央区安土町1丁目7番13号 トヤマビル7階 日本製紙連合会関西支部内	06 (6262) 6315	06 (6262) 6316
中・四国	799-0492	四国中央市三島紙屋町2番60号 大王製紙（株）内	0896 (23) 9124	0896 (23) 4411
九州	812-0011	福岡市博多区博多駅前4丁目13番27号 グランドハイツ博多314号	092 (292) 5381	092 (292) 5382

会報

news
LETTER

第50巻第1号
2024年1月19日

発行所

公益財団法人古紙再生促進センター

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4F

電話 03 (3537) 6822 (代表)

ホームページ <http://www.prpc.or.jp>

発行人 川上 正智

印刷所 日本印刷株式会社

リサイクル適性[®]

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

古紙再生促進センターは2022年に紙リサイクルが担うSDGsの6つの目標を設定しました



公益財団法人 古紙再生促進センター

